

第17回辰野千壽教育賞 講評

本年度の選考委員会は、窪谷 理さんの実践研究を優秀賞に選出しました。窪谷さんのテーマは、「身近な自然の教材化とその教育実践 ～小学校理科専科教員としての取組～」というものです。

窪谷さんは、小学校理科専科教員として、特に生物分野の学習に関して、自然豊かな学校環境を生かした生物教材の選定と、その栽培・飼育方法の工夫に取り組まれました。教科書に例示されている教室内飼育では、衛生面や数の制約、飼育管理に課題があるとして、野外飼育を積極的に取り入れています。学校園でキャベツやパセリを栽培してモンシロチョウやキアゲハの成長過程を観察したり、野外に積んだ堆肥からカブトムシを採集・飼育するなど、自校の自然環境を効果的に活用して、教室内飼育の課題を克服するとともに、準備の効率化にも成功しています。それはまた、児童にとって理科の学習が身近な自然に関する学習であることを強く実感させる取り組みとも言えるでしょう。

窪谷さんの実践に関して特筆すべきは、こうした実践が単年度・単学年に留まらず、次年度・次学年への継続・発展を意識した設計になっていることです。地域の特性に合わせた理科教材の工夫という点では、すでに様々な取り組みが報告されていますが、学校の自然環境を生かした理科学習というコンセプトがすべての学年にわたって貫かれていることは、児童が地域の自然環境に興味を持ち、理科学習を身近なものにとらえて探究意識を高めるのに大きく貢献すると期待され、理科専科教員ならではの取り組みとして高く評価されました。昨今文部科学省が推進している小学校専科教員導入の効果を示す好事例としても、本実践の意義が認められます。

このように本実践は、小学校理科専科教員ならではの視点から、学年と年度を越えて、学校の自然環境を生かした理科学習の構築に取り組んだものであり、その実践性や継続性が高く評価され、優秀賞に相応しいと判断されました。

以上、簡単にご紹介いたしました。窪谷さんの研究は今後の小学校理科の授業におおいに参考になる取り組みであり、多くの教員に受け継がれていくことが期待されます。この辰野千壽教育賞受賞を機会に、窪谷さんが、これまで身に付けてこられた研究力と実践力を発揮され、研究にいっそう磨きをかけていただきますとともに、教育現場のリーダーとして、ますますご活躍されることを願っております。

辰野千壽教育賞選考会議議長